

令和元年度 第2回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会議事要旨案

1. 日 時：令和元年6月24日(月) 13時00分～14時20分
2. 場 所：【鹿屋体育大会会場】鹿屋体育大学管理棟2階 大会議室
【東京会場】東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター2階 多目的室1
3. 出席者：【学内委員】松下、森、石田の各委員
【学外委員】泉、上治、小館、宮嶋の各委員
4. 列席者：岩重監事、山田附属図書館長、荻田学長補佐、瓜田学長補佐、濱田学長補佐、前田学長補佐、事務局次長兼教務課長、学生課長、学術図書情報課長、総務課長、経営戦略課長、財務課長、施設課長、監査室長

5. 内容

(質疑の○は学外委員の発言を、●は学内委員及び学内者の発言を示す。以下同じ。)

1) 前回議事要旨確認(資料1、資料2)

平成30年度第6回経営協議会議事要旨案及び令和元年度第1回経営協議会議事要旨案について確定された。

2) 審議事項

(1) 令和2年度鹿屋体育大学概算要求について(資料3)

石田委員から配付資料に基づき、令和2年度鹿屋体育大学概算要求について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

○壁面収納式移動観覧席は昨年も要求して通らなかったのではないかと。

●文科省は設備の予算自体が元々少なく、昨年は総合大学等の研究設備の予算にまわったので、今年度も要求はするが厳しいと思われる。

○地元住民の利用も多くなったとの説明があったが、申請するときにはそのあたりを伝えているのか。

●文科省へも、地元の人が本学に来て、スポーツを応援する機会が多くなってきていることを十分説明している。

○地元とのつながりがあることをしっかり伝えることも大事であると思う。

●UNIVASで市民を対象にしたエンジョイススポーツやカレッジスポーツデイという名で、サッカー、バレーボールやバスケットボールの試合を本学で開催し、地元住民に来てもらっていることをしっかり説明していきたいと思う。

(2) 2018(平成30)事業年度に係る財務諸表等について(資料4)

石田委員から配付資料に基づき、2018(平成30)事業年度に係る財務諸表等について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

○当期未処分利益は、壁面収納式移動観覧席の改修には使えるのか。

●可能ではあるが、より大きな施設の改修を考えている。2年前の目的積立金で今年は屋外トレーニング場にトイレを設置する予定であり、また、屋内プールの設備が老朽化しているので、その整備に充てたいと考えている。また、サッカー場、ラグビー場や野球場では、急な雨や落雷の場合など避難する場所がないので、3年くらい積み立ててクラブハウスの設置を考えており、今年度分はそれに充てる予定である。

○研究費が減少しているが、国立大学では、個人に配分される研究費が少なく、海外出張にも行けない状況があると聞かすが、鹿屋体育大学では個人にはどれくらい研究費が配分されているのか、また、研究活動に支障はないのか。

●金額は個別で異なるので具体的な金額の回答は控えさせていただきたい。九州地区では研究費が削られている大学もあるが、本学は今期減額は行っておらず、研究費最優先で予算配分を行っている。財務諸表上の研究費が前年度より減ったのは、研究に関する施設等の災害復旧にお金を要したという特殊事情によるもので、実際はほぼ横ばいであり、研究費については優遇しているほうである。

○研究費が減少すると、足りない部分は外部資金を申請する場合、そこで評価されるのが業績や発表論文等なので、成果が残せない、外部資金も獲得できないという負のサイクルになっている。特に理工学部の研究費不足が顕著であるが、鹿屋体育大学ではそのような問題はないということか。

●教員に配分する研究費は減らしていない。科研費もほぼ横ばいである。

○スポーツ庁から募集が出ている女性アスリートに特化した研究もあるので、調べてみてはどうか。

●教員にはいろいろな補助金制度については知らせているところである。他にも、TASS、PALS、CASE という学長裁量経費もあり、お金がなくて研究ができないということは本学ではそれほどない。

(3) 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について(資料5)

石田委員から配付資料に基づき、平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

○来年は、東京オリンピック・パラリンピックだけでなく、いよいよ鹿児島国体も開催されるので、連携協定は既に結んでいると思うが、学生の動員等社会貢献を含めた来年度の具体的な取り組みをぜひ検討して頂きたい。

●鹿屋市とも連携を組みながらPR隊を作り、進めているところである。

3) 報告事項

(1) 令和元年度在籍学生数について(資料6)

有馬次長から配付資料に基づき、令和元年度の在籍学生数について説明があった。

(2) 平成30年度卒業・修了者の進路状況について(資料7)

有馬次長から配付資料に基づき、平成30年度卒業・修了者の進路状況について説明があった。

(3) 令和元年度における会計監査人について(資料8)

浦口財務課長から配付資料に基づき、令和元年度における会計監査人について説明があった。

(4) 平成31年度重点プロジェクト事業経費について(資料9)

永松経営戦略課長及び浦口財務課長から配付資料に基づき、平成31年度重点プロジェクト事業経費について説明があった。

○東京2020大会等ボランティアに派遣される学生については、経験したことをレポートにまとめて提出を求めているかどうか。

●できれば発表会を開催することも考えている。

4) 学内外の諸情勢について

(1) 学生の競技成績について(平成31年3月～令和元年5月)(資料10)

瓜田学長補佐から配付資料に基づき、学生の競技成績について説明があった。

- (2) 東京2020オリンピック・パラリンピック事前トレーニングキャンプの誘致活動について(資料11)
永松経営戦略課長から配付資料に基づき、東京2020オリンピック・パラリンピック事前トレーニングキャンプの誘致活動について説明があった。

5) その他

- (1) 令和元年度の経営協議会開催日程について(資料12)
羽室総務課長から配付資料に基づき、令和元年度の経営協議会開催日程について説明があった。

(2) 意見交換

時間まで意見交換が行われた。内容は以下のとおり。

- 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)概要資料に記載の「スポーツ指導者基礎力テスト(SCCOT)」は現在どういう状況であるか。
- 現在、本学を含め山梨学院大学と大阪体育大学でテストを行っており、今から本格的に稼働をしていくという状況である。
- テストそのものはある程度できている。学生が4年間でどの程度指導者として能力が伸びているのかを可視化するテストである。今後、県の教育委員会や高校の教員、少年団の指導者にも広げようとしている。
- 成長具合を見ていくということで、指導者も現場で活動しながら日々成長していくことを求められるので、日本スポーツ協会など現場に携わっている人に使ってほしい。
- ぜひ、協力させて頂きたい。

以上